

# 《2013年7月例会報告》

【日 時】2013年7月18日（木）19：00～21：10（その後「ルン」～23：30ごろ）

【会 場】筑波大学附属高校3F会議室（東京都文京区大塚1-9-1）

【テーマ】コンフェデレーションズカップ2013を振り返って

【演 者】徳田仁（(株)セリエ）、牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会）、田村修一（フットボールアナリスト）

【参加者（会員）13名】安藤裕一（筑波大ハンドボール部OB）、牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会）、奥崎覚（会社員）、金子正彦（会社員）、佐藤真成（サッカー感（観）戦【蹴球亭】）、関谷綾子（関谷法律事務所）、田中理恵（会社員）、田村修一（フットボールアナリスト）、徳田仁（会社役員）、名方幸彦（文京教育トラスト）、中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（(株)シックス）、武藤豊（学生）

【参加者（未会員）6名】★五十嵐大樹（目白大学1年生）、国島栄市（ビバ！サッカー研究会）、★窪咲子（フリーライター）、★立木宏樹（九州保健福祉大学）、★宮原陽介（アップルシード・エージェンシー）、山内直（浦和レッドダイヤモンズ(株)）

【ルンからの参加者】小池靖

注1）★は初参加のため参加費無料

注2）参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

【報告書作成者】高田敏志（預り）

\*\*\*\*\*

## コンフェデレーションズカップ 2013 を 振り返って

徳田仁（株式会社セリエ）  
牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会）  
田村修一（フットボールアナリスト）

\*\*\*\*\*

### <目 次>

- I. コンフェデ杯を振り返って① ブラジルツアーの企画と実際  
徳田 仁（株式会社セリエ）
- II. コンフェデ杯を振り返って② デモの背景／2014年に向けて  
牛木 素吉郎（ビバ！サッカー研究会）
- III. コンフェデ杯を振り返って③ 今大会でみえたこと  
田村 修一（フットボールアナリスト）
- III. ディスカッション

## 自己紹介

中塚義実（筑波大学附属高校／以下、中塚） 皆さん、こんばんは。ものすごく久しぶりのような気がするのは、遠くへ行っていた方がおられるからでしょうか。7月の月例会は、お楽しみ、コンフェデレーションズカップ（コンフェデ杯）の報告です。今日は3名の演者がおられます。事前打ち合わせを経て、時間配分を考えてやってくださるようです。21時にはここを出て、次の場所で、更に濃いディスカッションができればと思います。

初めての方もおられますので、簡単に自己紹介をしてから始めたいと思います。

私は筑波大学附属高校で保健体育の教員をしている中塚です。サロンの理事長です。よろしくお願いいたします。

立木宏樹（九州保健福祉大学教員／以下、立木）：初めて参加させていただきました。九州の宮崎にある九州保健福祉大学でスポーツ社会学の教員をしています、立木と申します。よろしくお願いいたします。

田村修一（サッカージャーナリスト／以下、田村）：サッカージャーナリストの田村です。今日はトップバッターではなく、最後に大会の試合を通しての総括を報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

佐藤真成（以下、佐藤）：佐藤と言います。もっぱら見る方が専門で、年間 500 試合ぐらい、生で 100 試合ぐらい見えています。今回は 16 試合だけなので、大変楽でした。本番はその 4 倍ぐらいはあると思います。よろしくお願いいたします。

関谷綾子（弁護士／以下、関谷）：静岡から来ました弁護士の関谷です。今日の月例会はすごく久しぶりなのですが、どうぞよろしくお願いいたします。

安藤裕一（筑波大学ハンドボール部 OB／以下、安藤）：筑波大学ハンドボール部の OB、高校生のハンドボールの指導と会社勤務の医師をやっています。よろしくお願いいたします。

五十嵐（大学生）：初めて参加させていただきます、目白大学1年生の五十嵐大樹です。よろしくお願いいたします。

名方幸彦（NPO 法人文京教育トラスト事務局長／以下、名方）：NPO 法人文京トラストの名方です。今年はラグビースクールをついに開始しまして、一昨日子どもを連れて菅平に行ってきました。今日はコンフェデの話聞きたくて来ました。楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

山内直（浦和レッズ／以下、山内） 浦和レッズの山内と申します。2回目ですが、よろしくお願いいたします。

窪：今日初めて参加させていただきます、窪と申します。昨年末に帰国したのですが、2年間世界一周の旅をしながら、各地でサッカーを見てきました。来年の W 杯に行く予定です。現在はフリーランスのライターをしております、来年の W 杯に向けて色々な話を伺えたらと思っています。よろしくお願いいたします。

宮原陽介（アップルシード・エージェンシー／以下、宮原）：宮原と申します。よろしくお願いいたします。田中さんにご紹介いただきまして、今日初めて来させていただきました。普段は作家のエージェントという仕事をしています、サッカーではなくて、本を書く方の作家です（笑）。主に、ビジネス書やサッカー関連などを取り扱っています。仕事と共にサッカーも好きなので、どうぞよろしくお願いいたします。

田中理恵（会社員／以下、田中）：田中です。よろしくお願いいたします。会社員で、趣味でサッカーの方をしていた

のですが、最近は観戦だけになってしまいました。来年の W 杯はすごい楽しみにしているので、今回は面白い話を聞きたいなと思っています。よろしくお願いします。

牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会／以下、牛木） 牛木です。サッカージャーナリストで、昔長いことスポーツライターをやっておりました。今日は二番手で話をさせていただきます。

徳田仁（株式会社セリエ代表取締役／以下、徳田） セリエという、ツアー企画兼イベント会社をやっています、徳田です。今日はトップバッターということで、後ろに重鎮のお二人が控えていますので、私はサポーター目線でブラジルはどんな国で、どんなことがあって何が大変かという、そういう話をしたいと思います。試合の内容についてはお二人にお任せします。ということで、スタートしてもよろしいでしょうか。私の持ち時間は 30 分しかありませんので、スタートしたいと思います。

## I. コンフェデ杯を振り返って①—ブラジルツアーの企画と実際

徳田仁（株式会社セリエ）

### 1. ブラジルツアーの企画

まずは、ブラジル・コンフェデ杯ということですが、今年 2013 年がコンフェデ杯、来年は W 杯、再来年のコパ・アメリカもブラジルでやる予定だったのですがチリに変わりました、そしてその次がリオ・オリンピックとなっています。4 年連続ブラジルで大きな大会があることになっていたのですが、コパ・アメリカはチリと開催順を入れ替えたらしく、2015 年はチリでコパ・アメリカが開催されます。ブラジル開催の大きなイベント—発目が今年のコンフェデ杯です。

来年の W 杯では、今回の開催地に加え、サンパウロやポルト・アレグレというところも開催地にはいってきます。

まずスケジュールを確認したいと思います。大会日程は 6 月 15 日からスタートして 30 日に閉幕しました。日本の場合、この 4 日前の 6 月 11 日に W 杯予選の最終戦、イラク戦がドーハであり、そこから FIFA のチャーター機で日本代表は現地に来ました。W 杯予選の最終戦は、本当は 6 月 18 日にオーストラリアや韓国などと同じように最終戦を行なうことになっていたのですが 6 月はすごく過密なスケジュールで行なわれた月でした。

私は仕事でツアーを作るのですが、このツアーがスタートしたのは 6 月 13 日です。本当は 3 月にもう募集をしたいぐらいの計画を立てていました。ところが、ブラジルのホテルと国内線がすごく強気で、一泊 5 万円、500 ドルでした。それがブラジルと戦った開幕戦のブラジリアの話なのですが、次の会場のレシフェやベロオリゾンテなども同じ金額を振ってきたのです。2 人で部屋を借りるとしても、1 人 2 万 5 千円じゃないですか。3 試合を見ようと思ったら 9 泊をしないといけませんので、そうするとそこだけで 20 万円以上かかってしまいます。加えて、国際線が 15~16 万、それプラス宿泊費、国内移動、チケット代を足していくとゆうに 50 万円を超えて、全部を足すと 60 万円ぐらいになってしまいます。それぐらいの金額になるので、これではお客さんが集まらないなど。

ちなみに 2005 年に開催されたドイツでのコンフェデ杯の時は、3 試合で 30 万円ぐらいでした。その時の倍じゃないですか。これでは集まらないなと思ってそこからずっと交渉し続け、若干金額は落ちていきました。それで 300 ドルぐらいです。そして 4 月の半ばごろに 3 試合観戦が 49 万 8 千円ぐらいとなり、やっと募集を開始したという状況です。それでも 50 万円なのであまりお客さんも来ないだろう、20~30 人ぐらいだろうなと思っていたら、一気に 50 人も集まり、最終的には 70 人になってしまい、チケット代も足したりして、結局 8 万円ぐらいプラスの 58 万円になってしまいました。それが 3 試合観戦のツアーです。お客さんには 1 試合だけ見る人もいますし、最初の

ブラジル戦とイタリア戦の2試合、そしてそこにメキシコ戦を加えた3試合を見る人もいましたし、他の試合を1試合見る人もいました。決勝までのそういったお客さん全部を足すと130人ぐらいです。そんな感じでした。

## 2. ブラジルに行くにはビザが必要

ブラジルに行くにはどうしたら良いのかと言うと、一番面倒くさいビザを取らないといけないのですね。他の南米の国ではビザはいらないのですが、ブラジルだけは必要で、ビザ申請には、顔がしっかりとおさまった写真で、かつ背景は白色を載せないといけません。うちでもビザ申請の代行をやったのですが、写真屋さんで撮ると、背景がブルーになったりするのですね。それもダメではねられてしまうため、何度も撮り直したりして苦労しました。

中でも一番面倒くさいのが、東京での申請です。申請する場所は日本に3カ所あるのですが、現住所によって変わってきまして、東京が一番お客さんも多く、一番面倒くさいのですね。預金残高証明も必要で、銀行にもらいに行かないといけません。これが名古屋での申請になりますともう少し緩くて、浜松になると、在日ブラジル人が多いからなのか、いりません。昔、私が学生の頃は、日本でパスポートを取る時にも25万円ぐらいの残高証明が必要だったので、それを思い出したぐらいでした(笑)。

何でこんなことをやる必要があるのかと言うと、日本に来るブラジル人に対しても日本政府は同じようなことをしているらしく、それに対する報復処置のようなもので、日本人に厳しいらしいです。普通はこんなことは必要ありませんからね。ロシアだって、サウジアラビアだって、ビザ取得に残高証明は必要ありませんから。

普段はビザの申請が必要な国が、W杯などのようなイベント開催が決まると期間中要らなくなったりするのですが、ブラジルに関してはそうはいかないみたいでした。ビザ申請は自分でやれば領事館に払う査証申請料(三千元弱)だけですが、代理申請の場合は、査証申請料と別に業者に払う手数料がかかります。ただ今回、開催の数か月前に、コンフェデ杯のチケットを購入した人はこの査証申請料が必要ないと領事館が発表したのです。ところが、FIFAとの打合せがうまくいっていなかったようです。インターネットでチケットを買うとそれに対する証明書がFIFAからメールで送られてくるのですが、私が(準決勝のチケットを)もう1人の分も合わせて2枚購入した際に、購入者である私とその人の名前はネット上で登録するのに、その証明書には私の名前しか記載されていないのです。そのため、結果的には私だけがタダになり、一緒に購入した人はタダになりませんでした。そういう不手際?が今回はありました。もし来年も同じ方法だとすれば、全員1枚ずつ別々に買わないと、この査証申請料タダのメリットを利用できないことになります。・・・まあそういった苦労をしながらビザを取得し、いざブラジルに行くことになります。

## 3. ブラジルの地理と国内の移動

現地がどれぐらいの気温で、どれぐらいの距離なのかと考えた時に、先程も話に出ていたのですが、まずどれぐらいの暑さなのか。東京は大体北緯34度なので、それをブラジルに合わせるために南緯34度のところを見てみると、東京と同じ緯度の高さにある開催都市がありません。ブエノスアイレスやポルト・アレグレよりもっと下ぐらいが東京と同じ高さになります。リオ・デ・ジャネイロとかのある南緯22度は、香港と同じぐらいの位置になります。フォルタレーザがどれぐらいかと言うと、南緯3~4度ですから、北緯3度のクアラルンプールぐらいになります。要するに、冬のW杯、冬のコンフェデ杯と言いますが、実際香港より南でやっているようなものです。ですから夏の大会だと思った方が良いでしょうね。

大会中にサンパウロに行ったのですが、この時だけは気温が10度代になったこともありましたが、まあそれでも南緯23度ですと、日本にはなく、台湾ぐらいになります。ですから来年行く人は、冬の大会だと思わずに、夏だと思って行っていただければ良いのではないのでしょうか。

それから、ブラジルの国内線について話します。私が乗った航空会社が大体4社ぐらいあったのですが、TAM航空というのが一番大きくて、そこからGOL航空、AZUL航空でしょうか。こういった会社がありまして、リオからブラジリアへは1,160キロ、1時間20分、2万円ぐらいかかりました。1,200キロで大体東京から福岡ぐらいですから、移動する度に日本を縦断するような移動を繰り返すことになります。ブラジリアからレンフェが2時間20

分で2,130キロですから、札幌から福岡ぐらいですかね。ブラジル戦後はそれぐらいの移動になりました。つまり、国際線で運賃がかかった上に、さらに国内線の移動で運賃がかかるような条件になっています。ですから、今回、1試合目がブラジル、2試合目がレシフェ、3試合目がベロオリゾンテとなり、どさ回りみたいな開催だったので、もしブラジル、ベロオリゾンテの順で開催されていれば、この距離でしたら国内移動で可能でした。

来年のツアーを作る時に、できるだけここで泊まりながら各地に行けるようなツアーであれば、話は収まるのかもしれませんが、今回のように移動ばかりになると本当に高くなってしまいます。

#### 4. ブラジルツアー—今回の徳田氏の動き

私がどうやって移動したのかというのを見ていきます。私は6月10日に中塚さんたちとの会議（東京都サッカー協会フットサル委員会）が終わった後、その日の夜中1時30分の飛行機でドーハに飛び、この日の代表戦を見て、泊まらずに12日の朝3時45分にドバイ発リオ・デ・ジャネイロ行きの便に乗り、12日の夕方にリオに到着しました。そして、ここでチケットをピックアップして、ブラジル、レシフェ、ベロオリゾンテの試合を観戦し、サンパウロで少し休憩して、フォルタレーザで準決勝、リオで決勝というようなスケジュールで行きました。

##### ◆ドーハ

ドーハからリオについてですが、ドーハでの日本代表の試合は皆さん見られたと思います。この試合は出場が決まった後でした。ものすごく、砂嵐と言いますか、砂が飛んでいる状態で、私はコンタクトなので痛くてほとんど見えませんでした。お客さんも基本的にイラクの人ばかりの中、日本が勝ちました。一応、皆さん挨拶に来てくれましたけど、大体500人ぐらい日本人がいたのではないかなと思います。

私たちは3時45分の飛行機でドーハを離れたのですが、日本代表はチャーター機で、おそらく1時間弱早く飛んだのだと思います。ダンヒルのスーツとかを着た本田とか、選手の皆さんが空港に来たのですが、ここに日本のお客さんがいたら大変なことになっていたと思いますね。ですから、私たちもあまり邪魔をしてはいけないとは思っていました。ただ、香川は大学生がリクルートスーツを着ているように見えましたね（笑）。

実はドーハネタが1つあって、今年の3月にドーハで行なわれたカナダ戦の親善試合の時にも行ったのです。その時にタクシーの運転手が「カタールに鉄道網ができる」と言っていたのですが、冗談だと思って調べてみたら、本当にできるらしいのです。街の真ん中にダウ船のラウンドアバウトというロータリーがあるのですが、そこがすごく開発されていて、旧市街のど真ん中に豪華な建物がありました。そこからバーレーンに向かって高速鉄道が伸びていて、この先サウジアラビアの方にも伸びるといふ計画があるようです。どうやらサウジアラビアへの鉄道は、2022年のW杯前には完成するようで、2017年完成予定、バーレーンの方は2019年までに完成するようで、これらの鉄道はそれぞれの開催都市に繋がると書いてありました。本当かどうかはわかりませんがね。

ドーハというのは何も観るものがありませんし、試合と試合の間に行くところもない、お酒も飲めない、みたいなことになります。明日か明後日には開催時期を1月にするかどうかのFIFAの会議があるみたいですが、開催時期を変更しない限り、気温50度以上の6月開催は、いくらエアコンが完備されたとしても不可能でしょう。また、サウジアラビアからバーレーンへはすでに橋がかかっていますが、それに繋がるようにカタールからバーレーンまで橋を新たに造るようです。サウジアラビア人が酒を飲みバーレーンまでやって来て、あまり飲んだことがないものだから、橋の付近で酔っぱらって吐いている人もいましたからね（笑）。もしかしたら、バーレーンまでの橋ができたなら、カタールまでそういう人が来ることになるのかもしれないですね。9年後にどういうふうになるのかという話ですが……。そういう色々なことを思いながら、ブラジルに向かいました。

##### ◆リオデジャネイロ

リオ・デ・ジャネイロ（ガレオン）空港の第2ターミナルに到着しました。思ったより入国審査もスムーズにいき、荷物もちゃんと出てきました。そして最初にターミナルに設置されていたブースでチケットのピックアップをしました。ブラジルの場合は、南アのとくとは違い、対面でパスポートをチェックされチケットを受け取ります。

そしてその時に顔写真も撮られました。南アでは機械にクレジットカードを差し込むだけでチケットを受け取れましたが、ブラジルではそこまでするようです。ただ、決済したクレジットカードのチェックはありませんでした。

試合会場（イベントゾーン）に入る時には最初に空港のようなセキュリティチェック（エックス線を通す）があります。金属類は厳しくチェックされていましたが、カメラは大きさにかかわらずOKでした。そして、いよいよスタジアムの中に入るという段階で、チケットのチェックがありました。ですから、チケットの不具合があっても手前の段階でわかりません。チケットのトラブルはありませんでしたが、早い段階で最初のチェックはやってくれるほうがいいですね。チケットのチェックは、改札機のようなブースで、センサーがチケットに埋め込まれているチップの部分を検知すると赤ランプから緑ランプに変わって通れるというパターンと、チケットに印刷されているバーコードの部分を読み取ると赤ランプから緑ランプに変わって通れるというパターンの2種類あったようです。

少し時間があつたので、メキシコ代表が練習するというバスコ・ダ・ガマのスタジアムにも寄ってみました。天気がそこまで良くはなかったですけどね。ちなみに、ゴール裏にベンチがあるスタジアムは世界中探してもこのスタジアムだけでしょう。この日はここでメキシコ代表が練習をしていました。

とりあえずブラジルの初日ということで、コパカバーナでボヘミアという地元ビールを飲み、シュラスコ（牛肉、豚肉、鶏肉などを炭火で焼く、ブラジルの肉料理）を食べました。そして翌日、私はドーハからの飛行機が到着したガレオン空港ではなく、国内線用の市内からすごく近いサントス・ドゥモン空港からブラジリアへ向かいました。

## ◆ブラジリア

ブラジリアというのは、地図で見ると飛行機のような形をしていて、東側が機首で、南北に翼があるような感じですか。ここは公務員の街で、首都ということもあり、ほとんど官庁のような建物しかありません。ですので、宿泊するホテルのある地区が決まっています、ホテルがある地区は2カ所しかありません。そのうち片方の地区のホテルに私たちは泊まりました。ホテルの近くにはナショナルスタジアムあり、歩いて25分ぐらいで行けます。結構大きめのホテルなのですが、そのホテルでも英語を話せる人はフロントに1人ぐらいしかいませんでした。

ナショナルスタジアムについては、周りがまだ何もできていない状態で、大会のブースも1日前にできたような感じでした。この日の時点で、デモが行なわれていました。報道されたかわかりませんが、次の日の試合当日、日本人の学生たちがデモと一緒に、警察から引き離されたりしていました。また、その少し前に子連れが家族がデモの中に入ってしまったらしく、「ものすごく怖い思いをした」と言ってホテルで震えていたという報道が現地ですでにありました。ホテルから歩いて行く道の歩道がとても歩きづらくて、車用にしかなくておらず、相当苦労しましたね。市内観光用のバスなんかも出ていて、それに乗ったりもしました。

当日はそういう道の中、25分かかってスタジアムまでぞろぞろと歩いて行きました。スタジアム前に来て、皆で写真でも撮ろうかと言ったら、ブラジル人たちがそこに入ってきて、しばらくしてからやっと私たちが整列して撮れました（笑）。本当に写真好きでしたね。そしてセレモニーが始まって、皆さんも見たいと思いますが、日本の出し物をしているけど、日本人がやっているわけでもないですし、どこが日本なのかと思いましたね（笑）。

それから開幕戦が始まるのですが、スタジアムはほぼ満員でした。国歌が流れているときにブラッター会長とジルマ・ルセフ大統領が大型スクリーンに映しだされたのですが、このときブーイングがすごくて、「ブラッター会長はどこに行ってもブーイングされるんだな」と思っていたら、実はルセフ大統領に対するブーイングが7割ぐらいを占めていたのですね。デモのきっかけにもなったのですが、大会直前に公共交通機関の料金を値上げしたこともブーイングの原因だったようです。

試合結果はご存知の通りです。試合が終わった後に、私たちのいる日本のベンチ裏辺りに我々50人ぐらいの日本人がかたまっていたので、選手たちも挨拶に来てくれたのですが、呆然という感じで、そういう雰囲気はすごく伝わってきました。その後は皆でお疲れ様飲み会をして、ブラジリアを発ちました。

## ◆レシフェ

レシフェに移動します。私はブラジル戦の翌日の6月16日に行われるスペイン対ウルグアイ戦を観戦するお客

さんに同行しました。飛行機が空港に下りる直前にスタジアムが見えたのですが、市街地から相当遠いところだったので、その時に嫌な予感がしました。

到着したその日に試合がありますが、スタジアムに入ったのは、19時キックオフのところ18時頃でした。後で説明しますが、パーク・アンド・ライド方式になっていて、途中で1回シャトルバスに乗り換える必要のあるスタジアムでした。この試合でびっくりしたのは、試合前のアナウンスでレフェリー・西村さん（西村雄一）の名前が呼ばれたときでした。ですので、試合中、私は西村さんを結構見たりしていたのですが、試合後にイニエスタが最初に握手しに来ていたのが印象深かったです。テレビで見ている方はわかると思いますが、内容は良かったのではないのでしょうか。あとで試合後のスタッツを見ましたが、ボール支配率が78対22でスペインが圧倒的に支配して、勝利しましたね。

帰りもシャトルバスになりますけど、とにかく暗かったです。シャトルバスに乗っている間、外が真っ暗だったのです。夜だからなのはもちろんです、外灯がほとんどなくて、投光器みたいなものはあるのですが、とにかく足元などに気をつけないといけないくらい大変な状況でした。

話はかわりますが、レシフェの海はサメが出るとのことでした。私自身も知らなくて、朝に散歩をしていたらサメ注意のマークが出ていたので、「あれ？」と思って後でネットを検索したら、足を食いちぎられた人の写真とかネット上にたくさん投稿されていてびっくりしましたね。レシフェの海岸は珊瑚礁が減ってしまったため、サメが近くまでやってくるようになったとのことでした。ホテルからは海岸が綺麗に見えるのですが、サメが出るので泳ぐことはできませんでした。

イタリア戦の試合前は時間があったので、レシフェとその隣のオリンダという世界遺産の街に行ってみました。そこでは地元のお祭りで使われる大きな人形の文化がありまして、イニエスタやペドロ、ネイマールなどの巨大な着ぐるみ人形が広場に出ていました。オリンダにあるセイ教会という教会の庭からはレシフェの新しい街とオリンダの古い街の両方が見えてとても綺麗でした。

さて、イタリア戦も再びバスでスタジアム近くのパーク・アンド・ライドの駐車場まで行き、バスを降りて歩いてシャトルバスのバス停まで行きました。チケットを持っていけばシャトルバスに乗れるという話でしたが、チケットのチェックも何もなく、緑色の腕輪を付けてくれるのですが、何のために付けているのか最後まで分かりませんでしたね。帰りにもチェックはありませんでしたから……。シャトルバスに乗っている時間は15分、シャトルバスを降りてからさらに15分歩いてようやくスタジアムに到着できました。スタジアムの外側はまだ工事中という感じで、舗装されているべき道は雨が降ったせいもあり、ぬかるんでいて歩くのが大変でした。できたばかりというかまだできてない……。感じでした。

こうしてイタリア戦を観戦したのですが、4-3という、こんな打ち合いのスコアはあまり見たことがなく、お客さんも喜んでいました。ですが、実はこの後、新潟から来た60歳ぐらいのお客さんが行方不明になってしまったのです。おそらくこの試合を観て興奮してしまって、集合場所の方向が分からなくなってしまったらしく、スタジアムの反対側に出てしまい、偶然そこにいた日系の人に助けをもらって、最後はパトカーで本来の集合場所に連れてきてもらいました。そういう事件もありました。

実はレシフェの市内には、普段使っているスタジアムが複数あるらしいのですが、そのスタジアムを使わず、40kmも離れた場所に新スタジアム（ペルナンブーコ）を作ってしまったのです。レシフェの市内からスタジアム最寄りの駅まで約1時間かかり、そこからシャトルバスに乗って15分、歩いて15分ぐらいかかるので、何でそんなところにスタジアムを造ったのかというクレームが現地からも出ていました。街を歩いていて地元テレビのインタビューを受けた際にも「このスタジアムはダメだと言ってくれ」というリクエストが出されていましたね。

## ◆ベロオリゾンテ

次はベロオリゾンテです。ベロオリゾンテは247万人、レシフェが155万人、ブラジリアが256万人というぐらいで、結構大きい都市です。市内の目抜き通りでデモがたくさん起きそうな雰囲気がありまして、なおかつ先程の大統領の出身地ということもあり、すごくデモを警戒していました。

北側の方にあるパンプリーヤ湖の近くにミネイロンというスタジアムがありまして、そこはクルゼイロとアトレチコ・ミネイロのホームになります。ですから、普段から使っているスタジアムになります。ちなみにパンプリーヤ湖の横にはサン・フランシスコ・ジ・アシス教会がありまして、有名なオスカー・ニーマイヤーという共産主義の建築家が造ったものになります。ブラジル国内どこに行っても、ブラジリアでもそうですが、オスカー・ニーマイヤーという名前はよく聞きましたね。

ホテルの部屋からデモ隊が見えたのですが、最初は少なかったのにどんどん集まってきました、外に食べに行こうとしたら、公共料金の値上に反対するデモ隊がバスをとり囲んでバスが動けない状態になっていましたね。

さてメキシコ戦ですが、キックオフは16時だったのですが、警察から12時過ぎにデモ隊がホテルの周辺に近づくので5時間前には出発したほうが良いという指示が出されたため、11時15分ぐらいにホテルを出て、12時にはもうスタジアムに着いていました。また、警察の情報によると、通常はキックオフの3時間前にスタジアムを開門するが、この日は特別に4時間前に開門するという話でした。しかし12時を過ぎているのに開門する気配は無く、係員も「もうすぐ開けるよ」とアナウンスはするのですが、結局開いたのが12時57分で、3分早かっただけでした(笑)。そうやってメキシコ戦を観戦し、お客さんの半分がこの試合の翌日帰国しました。

#### ◆サンパウロ

日本戦3試合が終わったあと、私は、少しお客さんとは離れて、サンパウロに行きました。この時の気温は20度でした。それまでずっと30度前後のところだったので、サンパウロで久しぶりに長袖を着ました。6月24日時点での地下鉄の料金1回券が3.2リアルでした。地下鉄に乗る時は、車両の真ん中が乗車位置で、両サイドが降車位置になっていました。東洋人街には日本食レストランもあり、久しぶりに日本食を食べましたね。あとは、コーディネーターの人から、コリンチャンスフットサルのチームにニックネームが「パウリーニョ・ジャポネーズ(Paulinho Japones)」という日系の人気選手=日本語はほとんど話せないヤマダさん(本名:パオロ・ホベルト・マシエル・ヤマダ)がいるということを知ってもらい、会わせてもらえることになりました。

翌日、コリンチャンスのクラブハウスを訪れました。クラブハウスには、昨年クラブW杯で優勝した際に、そのお祝いに子どもが描いた絵が飾られていたのですが、なぜかほとんどの子が富士山の絵を描いているのですね。しかしそこで形が違う富士山の絵も見かけました(笑)。見たことがないでしょうから仕方ないですけどね。

さて、コリンチャンスのクラブの敷地内にあるフットサル場に、そのヤマダさんが9時半に練習に来るということで待っていましたが、9時半になっても10時になっても誰も来ません。そのうちU-20のチームが現れたのでU-20の練習を見学しました。熱心に見ていると、ユースの強化部長が出てきて、「コリンチャンスの指導講習に誰かよこしてくれないか?」という話をされました。結局、ヤマダさんは用事があるため来られず、チームの練習自体も昼過ぎからに変更になったようです。まさにブラジルって感じ!

この後で、クラブハウスとは少し離れたコリンチャンスの新スタジアム(建設中)に行きました。実は、コリンチャンスは所有するスタジアム(パルケ・サンジョルジ:収容18,000人)が小さすぎるので、市営のスタジアム(バカエンブー:収容4万人)を借りてやって試合をやっていたのです。ですが、このW杯をきっかけに、イタケラという場所にスタジアムを建てることになったのです。サンパウロ新聞の取材に同行させてもらい、建設途中のスタジアムに入れてもらいました。中では水がまかかれていて翌日から芝をはるという話でした。完成後の観客動員数が4万5千人とのことですが、FIFAの規定では収容6万人以上にする必要があるため、両ゴール裏に仮設で1万ずつの座席を設けると言っていました。私は勘違いしてスーツで行ったのですが、そんなものは不要で、ヘルメットをかぶらされ安全靴を履かされ、作業用ユニフォームも着せられました。スタンドの一部に椅子が取り付けられていたので座らせてもらいました。若そうな建築責任者だったのですが、彼はわざわざトイレを見せてくれて、「TOTO製だよ」と言っていましたね(笑)。スタジアムに隣接して「コリンチャンス・イタケラ」という名前の地下鉄の駅もありました。その日は6月25日だったのですが、帰りに地下鉄の切符を買おうとすると、先日3.2リアルだった料金が3.0リアルに下がっていました。デモの影響で、月曜日から下がったとのことでした。



## ◆フォルタレーザ

次に、北のフォルタレーザに移りました。南国の雰囲気漂う会場で、この準決勝の会場もパーク・アンド・ライド方式でアクセスするスタジアムでした。最寄りの駐車場までは近く、15分ぐらいで行けるのですが、そこからバスに乗って25分、バスから降りてまた25分歩いてやっとスタジアムに到着できました。この試合を見たお客さんは4人のみ。

さて、スペイン対イタリアの試合ですがPK戦になり、ブッフオンは味方の選手が蹴るところを見ないのだなという面白い発見もありながら、結果はイタリアのボヌッチが外してスペインの勝利で終わりました。4人は値ごろ感抜群の試合を満喫できました。

## ◆リオ・デ・ジャネイロ

そして、最後に再びリオ・デ・ジャネイロに戻りました。この日はすごく天気が良くて、本当にパンフレットのような写真が撮れました。ポン・ヂ・アスーカルという、砂糖パンとかシュガーパンという名の岩とかも見る事ができました。その砂糖パンに登り、頂上からボタフォゴのビーチなども見えました。夜は、サンバショーなども見たのですが、1時間ぐらいやっていて、はっきり言ってあまり面白くはないです。ずっと踊っているので・・・。途中、カポエラエイラのショーがあり、これは面白かったですね。

そして、いよいよ決勝戦。スタジアムへは地下鉄で行きます。試合のチケットを持っていると、地下鉄がタダで乗れました。マラカナン・スタジアムを挟んだ両サイドに地下鉄の1号線と2号線の駅があるのですが、私たちのホテルからは便利な側の2号線の駅にデモ隊が来るという情報だったため、やむなくもう1つの駅を使うことになったのですが、むろん大渋滞になっていました。駅からマラカナン・スタジアムまで橋（歩道）があるのですが、その橋の上を黄色いユニフォームの人たちが延々と並んでいました。1号線のマラカナンの駅の裏側はスラム街になっているのですが、スタジアムまで歩いていると、どう見ても火事に見える炎がスラム街から上がっているという光景も目にしました。最後までその炎が何だったのか分かりませんでした・・・。

さて決勝戦の前のセレモニーが始まり、選手たちが入場してきました。そして、ちょうどスペインとブラジルの国歌が流れている時に、スタジアムの外でデモ隊と警官隊が衝突したのかガス弾のような大きな音がしていました。警察が催涙弾のようなものをデモ隊に打ち込んだようで、かなり薄くなった催涙ガスが私たちの方にも流れてきて、15分ぐらいくしゃみが止まらなくなったりしました。

ブラジルが優勝し、マルセロだけは表彰式の写真撮影の前にユニフォーム交換を済ませていました。(笑)

・・・駆け足になりましたが、時間がないのでこの辺で終わりにしたいと思います。

最後に、来年に向けて観客動員数を調べてみました。見ていただければわかりますが、入場者数=収容人数というのものあるので後日訂正されるかも知れませんが、とにかく動員数がすごい。ほぼ満員になっていました。タヒチ vs ナイジェリア、ナイジェリア vs ウルグアイ以外の試合はほとんど5万人近く入っていて、総入場者数は85万5千人。今までのコンフェデ杯のデータを見ると、日韓の時は55万、ドイツは60万、南アフリカで50万ですから、いかにブラジル人がサッカー好きで試合を観に行くモチベーションが高いかということになります。

ですから、おそらく来年のW杯のチケットも、入手が相当大変なことになると思います。覚悟していただけたらと・・・。今回のブラジル vs 日本の試合のチケットもなかなか手に入らず、ほかにツアーも出ていなかったぐらいなので、来年は本当に気をつけなければと思いつつ、今回のコンフェデ杯のツアーを終了しました。

本当はもう少し食事やフットサルの話もしたかったのですが、次に取っておきたいと思います。どうもご清聴ありがとうございました。

## II. コンフェデ杯を振り返って② デモの背景／2014年に向けて

牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会）

時間がありませんから（質疑応答はあとにして）続けてやりたいと思います。徳田さんの話が既に予定より15分超過していますし、最後の田村さんの話は試合の内容の話で一番重要だと思います。私は用意してきた話の半分くらいにします。お話する予定だった内容は、お配りしたプリントに大筋を書いてありますので、ご覧ください。

### ◆「試しに行ってみた」4度目のブラジル

ワールドカップには前回の南アフリカ大会まで11回連続で取材に行っています。11人のサッカーですから、11回でやめようと思っていたのですが、次は（サッカーの国）ブラジルなのでぜひ行きたい。そこでサポーターの番号である12回まで行くことにしました。ただ、年齢が年齢なので体力的にもつかどうか分かりません。「試し酒」という落語がありますが、あの話のように、試しに行ってみようと、今回のコンフェデレーションズ・カップに行きました。

体力的な問題もそうですが、その前に年齢的なことが成田で問題になりました。空港のロビーで旅行障害保険に入るために保険会社のカウンターに行きました。出発する日が私の誕生日でして、しかも81歳の誕生日だったのです。そうすると、81歳から保険料のランクが上がるのですね（笑）。

成田からドバイ経由でブラジルに着くまで33時間かかったのですが、それは大して問題にはなりません。一番問題になったのは、ブラジルの各競技場の記者席まで、階段を上っていくことでした。ブラジルの競技場は非常に高さがあるのですね。しかも一番上が記者席になっています。さらに、記者席も縦になっていて、下からA、B、C…となっており、ある時はFだった時もありました。Fと言うと、記者席でも一番てっぺんになるのですね。それは非常にしんどかったです。しかも、一つひとつの段差も高くて、1歩上がるのも容易ではありませんでした。まあそこを除けば快適に旅行をすることができたので良かったとは思っています。

### ◆デモ騒ぎの実際とその背景

ただ、色々なこともありまして、先程話がありましたように、コンフェデレーションズ・カップの大会中にデモ騒ぎがあったのですね。そのデモ騒ぎの話だけはしておきたいと思います。私はいつもスタジアムに入る前にスタジアムの周りを一周して、どんな感じか見ることにしています。ブラジリアの開幕試合のときも、スタジアムに入る前に、周りを見て回ったのですが、ある場所で警察の機動隊が広場全体をずっと囲っていました。それを見に行こうとしましたが、機動隊が入ってくれません。そのうちに100ぐらいの騎馬警官隊も来て割って入りした。そこから離れて見ていたら装甲車が来ましてその周りを囲むわけです。そのまま離れて見ていたら、その次に大きな音がしまして、催涙弾が投げ込まれました。その後、白い煙が上がり、その写真を撮ったりしていました。そのために、開幕のセレモニーを見ることができませんでした。まあどちらが面白いかと言ったら、それはもちろんその衝突の方ですよ（笑）。ただ、その時はどういうわけでそういうデモが起こっているのか分かりませんでした。

その1週間ぐらい前にサンパウロで、先程説明にありましたように、地下鉄とバスの運賃の値上げがありまして、市内の料金が均一で3リアル、日本円で言うと150円ぐらいだったのですが、それを3.2リアルに上げるということだったのですね。せいぜい20円ぐらいの値上げだったのですが、それに対して反対のデモがあり、それがどんどん広がって行って、大会中に全国で何十万という人がデモに参加したということでした。帰国してから日本の新聞を読んでも、ある新聞には「ワールドカップ反対デモ」というふうに書いてありましたが、実はワールドカップに反対するとかオリンピックに反対するというデモではなくて、もともとは地下鉄などの値上げだったのですね。

他に、大きく分けて3つの反対のテーマが挙げられていまして、老齢年金の引き下げに対する反対、医療予算の切り下げに対する反対、それから教育予算の削減に対する反対という3つのテーマが主たるデモ隊のテーマになっ

ておりました。ただ、そのデモ隊の人たちは、コンフェデレーションズ・カップという注目度の高い大会の時に合わせてデモを各地の会場で行ないまして、新聞はますます多く取り上げるということになったわけです。

その背景には、今の政府側の政治家が、ワールドカップとオリンピックのためスタジアムなどを、自分たちの利権のために利用していることがあります。それによって自分たちの支持者を得ようとし、なおかつ建設費のリベートをポケットに入れている。そういったようなことが新聞に掲載されていました。また、来年には大統領選挙があるので、その大統領選挙の1年前に、今の政府に反対する野党側がそういうデモを扇動しているのもあります。それがインターネットの力でどんどん大きくなっています。それは香港での尖閣諸島反対みたいなもので、ネットの力で膨らんでデモが拡大するという同じようなパターンがブラジルでも起こったことのようにです。

ただ、今の政府は、昔に比べれば非常に良いのですね。私自身ブラジルに行ったのは4度目で、最初にブラジルに行った時というのは軍事政権ということもあり、デモどころではなかったですね。デモをしたくても、弾圧されてできないという状況でした。また、その時はインフレでして、海外から来た私たちからすれば、とにかくお金をいくら使っても減りませんでしたね。その当時はクルゼイロという単位なのですが、そのクルゼイロの価値がどんどん下がります。例えば今日1ドルが100クルゼイロになって、翌日には1ドルが300クルゼイロになる。どんどん手元のドルが、クルゼイロにすると増えていくわけですね。しかも、そこらへんもいい加減で、これはブラジルではなくて、メキシコの話ですが、一緒にいたカメラマンと十数人にご飯を奢り、クレジットカードで支払うと、帰国した1年後に請求が来まして、アメリカンエクスプレスで700円でした(笑)。請求する側が遅れている間にどんどんインフレで、そんな値段になったのです。当時のブラジルのインフレも同じようなものでした。

それに比べて、今は非常に経済が安定しております。その代わり物価もそこまで安くはありません。メディアセンターの中では水1本が6リアルで、大体300円ぐらいでした。まあスーパーで購入すれば1リアルで買うことができるので、日本よりは少し安いぐらいですね。それでも、昼飯を食べに行くと普通のサラリーマンが食べているようなところで食事をする、日本円に換算すると1,000円ぐらいかかりました。つまり20リアルぐらいです。少し贅沢をすると、もう50リアルとかいきます。そういうようなことで、外国人が外貨を使って得するという状況はなくなっています。というのは、外貨をもっていくわれわれにとっては都合が悪いのですが、ブラジル人にとっては良いことだと思いますね。

そういうふうにして、経済が安定して中間層がどんどん増えて行くのですね。ですから、以前のように大金持ちと貧乏人がいて、貧乏人にはサッカーしか楽しみがないという状況ではなく、色々な楽しみが出てきております。そうすると、そういった中間層は必ずしもサッカーをターゲットにデモをやることに抵抗を持ってはいません。まあこれは聞いた話ではありますが、そのようなことです。

#### ◆2014年へ向けて一宿の確保と国内の移動

来年のワールドカップに行かれる方がいらっしゃるということで、少し徳田さんの営業妨害になるような内容の話をしておきます(笑)。実は私は大失敗をしたのです。今回は、来年に備えて、色々試してみようと思ったのです。それで、最初のブラジリアのホテルと最後の決勝戦のリオでのホテルは、FIFAの指定したメディア用のホテルに申し込んで置きました。これが非常に高く、大体、日本円にして1泊2万5千円ぐらいになります。でも、それでずっといくと大変な額になりますから、ほかは現地で探すことにしていました。ところが、準決勝のときに試合地のホテルがまったく取れません。グループリーグと準決勝の間にサンパウロへ行きました。サンパウロは今回は試合がなかったのがホテル代はますますだったのですが、準決勝の試合地のベロオリゾンテとフォルタレーゼのホテルが満室でとれない。サンパウロの旅行社に探してもらって、ベロオリゾンテで1室あったのですが、1泊2000リアル、10万円以上する。旅行会社の人が色々調べてくれたのですが、ついには「行かない方がいいよ。サンパウロは良いところだから、サンパウロにずっといろ」と言われました。結局、準決勝を見に行くのは諦めて、サンパウロからベロオリゾンテへ行く飛行機の便はキャンセルしまして、サンパウロに居座ってテレビ観戦にしました。

最後の決勝は、リオデジャネイロなので、サンパウロからリオへ行く飛行機の便を改めてとったのですが、飛行機の運賃も、大体普通の2倍ぐらいしました。そこで色々話を聞いてみると、国内航空の運賃は、予約が早いほ

ど安い。残り座席が少なくなってくると、しだいに上がる仕組みだそうです。だとすると、ブラジル国内の移動については、予定が決まれば早く国内便の予約を取ってしまった方がいいということですね。

ですから、来年に行かれる人は、12月6日に組み合わせが決まりますので、12月にどの試合を見に行くかを決めたらすぐに飛行機のチケットを取った方が良いでしょう。たまたま知り合った日本からの観光客に聞いたのですが、その方は早めに日本で予約して、4カ所ぐらいサッカーを見てまわって、全部で4万5千円だったそうです。

ホテルに関しては、私の過去の経験からすれば、ワールドカップの場合、12月頃に予約すると非常に高いのですね。1泊4万円ぐらいしていた例もあります。1月終わりぐらいになると、各国のエージェントが押さえていたものを手離し始めるので、下がりはじめ、大会の直前になるとほとんどいつも同じぐらいの値段になります。今回に関してもそうなると思って現地を探すやり方をしたのですが、ほとんど下がりにませんでした。来年に関してもそうなるかどうかとはわかりませんが、宿の取り方に関しては少し考えた方が良いでしょうね。

それでは田村さんに代わります。

### Ⅲ. コンフェデ杯を振り返って③ 今大会でみえたこと

田村修一（フットボールアナリスト）

今の宿の話について、個人的には自分1人だけの分だけなのですが、5月の下旬に宿を取りました。先程、牛木さんがおっしゃったように、値段が一番下がっている頃だったと思うのですね。その時はほぼ全てのホテルを1万円以下で取りました。中には少し高くなったものもあったのですが、大体、最後のリオも含めて1万円弱、まあ3つ星から2つ星のホテルでした。4つ星以上だと、その時期でもやはり1万5千円ぐらいははまして、大体そんな感じでした。逆に飛行機は安く取れなくて、飛行機代の方は随分割高になってしまいました。

話を始める前に見ていただきたいものがあります。レキップマガジンという、レキップが出しているNumberのようなスポーツ雑誌があるのですが、コンフェデレーションズ杯の前に出たもので、「アンチパラダイス」というタイトルでリオの特集がされていました。巻頭にロマーリオのインタビューがあつて、ロマーリオはいま、国会議員をやっています、社会党に所属しているのですね。それで彼の主張している内容というのが、デモ隊が主張している内容とほぼ一緒で、それはサッカーと政治の部分、両方での不正の告発なのです。要するに、お金が裏でまわっているという不公平なことに対して色々言って、社会の格差をなくそうという内容のかなり強烈的なインタビューです。

全体的には非常にシリアスというか、時々レキップというのは硬派で格好いいものを扱うのですが、2つほど付箋をつけています。最初の部分はリオのファベラ（スラム街）の分布図で、もう1つの方はルポルタージュです。そのルポルタージュですが、ブラジルの大体の警察はミリタリー・ポリス（軍警察）で、そのミリタリー・ポリスがファベラの警備をやることになっており、それに1日密着したルポルタージュです。これは私の友達がやっているやつで、写真も含めて結構面白いので見てみてください。

それでは大会の総括ということで、やらせていただきます。前回の南アフリカの時も私は行かせていただいたのですが、その時は日本代表が出場していなかったため、全体をかなり満遍なく、試合もチームも見られて、そういう意味では総括的な報告ができました。ですが、今回は日本代表を中心に見たので、日本戦に関してはそれなりに詳しくできると思いますが、それ以外の部分に関してはかなり抜け落ちている部分が多いかと思うので、そこらへんはそういうものとして聞いていただけたらと思います。

## 1. 日本代表の戦いからみえたこと

### ◆コンフェデ杯に臨む日本代表の状況

まず、日本代表の方から始めます。前提として今回は、コンフェデレーションズ杯だけでなく、その1カ月のトータルなものとして代表の活動期間があり、その中で、日本で試合をやって中東で試合をやり、その後ブラジルに飛んで試合をやっていきました。その移動、時差、それから気候、特に中東の暑く、非常に条件が厳しい中で試合をやって、なおかつその後ブラジルに飛ばなければいけませんでした。しかもそのことに関して、知識・情報としては、ザッケローニも単発で試合を行なったことがあるので、中東が厳しいということはある程度わかっていると思うのですが、それが連戦になってくるとどういった影響を与えるのかということは日本代表にとっても未経験で、その中で遠征を行なったということになります。

ザックの戦略としては、全体としてターン・オーバーをせずに、W杯予選も含めて全ての試合をベストメンバーで戦いました。後にも触れますが、結局ザッケローニがどういう意図でそのようにしたのかというのはあまりわかっていないわけで、それはメディアとザックとの間にそういう対話とかコミュニケーションを取る機会が非常に少なくなっています。これは大きな問題なのですが、ザッケローニの意図というのがメディアに伝わりにくくなっているんで、一般の人たちにはさらに伝わりにくくなっています。そういう悪い状況の中に、いま日本代表があるということがわかります。

ターン・オーバーもせず、主力の選手たちは中東でヘトヘトになった後でブラジルに向かい、3試合を戦いました。結果的にその3試合、それぞれ全てが内容の異なる戦い方、内容の異なる試合運びをしたことになりました。

### ◆ゲームプランが狂ったブラジル戦

ブラジル戦は、最初に失点したことによってチームの戦略として描いていたシナリオが大幅に狂い、攻撃に出ざるを得ない状態になりました。当初は向こうの攻撃に耐えてカウンターという、去年の10月に行なわれたフランス戦みたいな試合をイメージしていたと思うのですが、それが逆に、ブラジルが先制点を入れたことでブラジルが強いプレッシャーをかけなくなり、日本にもある程度ボールを持てる時間ができました。どちらかと言えば望んでいたわけではなかったのですが、南アフリカの時のカメルーン戦のように、テンポの緩い試合になったことで、結果として良いのか悪いのかは別なのですが、日本もある程度ボールを持つことができました。

それでは、ボールが持った時に何をやったのかと言うと、日本が本来やるべきであった組織的なパスサッカーではなく、個に頼った攻撃になってしまいました。そこはカメルーン戦も、割と攻撃に関しては点と線の繋がりのような戦い方だったので、まああの時とはまた違いますが、攻撃のやり方自体は結局本田と香川の点と線で、そこに長友が少し絡むような、ザックジャパンがこれまで目指してきたコレクティブなパスサッカーとは少し質の違うサッカーでした。

私はこれを一つの大きな危機というふうに感じました。というのは、結局日本の評価、あるいはこれまでやってきたことというのは組織的なパスサッカーで、それにスピードを上げるというのがザッケローニの非常に大きなポイントでした。要するに、プレーのスピードをいかに速くしてボールをまわすのかということです。スピードというのはザックにとってはとても大きな意味を持つものでしたが、結局本田の意図をチームと融和させる過程において、スピードが失われてしまいました。これは、プレースタイルの構造的な矛盾になるのですが、個と組織の融和において、個の部分を強調して融和する、要するに本田のプレーの意図をチームの中に融和させる過程においてスピードが失われたということです。なぜかと言うと、それは本田のプレーにスピードがないからです。これはとても大きな問題で、おそらくザッケローニもどうやって解決したらいいのかわからない問題だと思います。

少し話が違う方向に行っていますが、それについて話すと、解決するには本田がプレースピードを上げるしかなく、それは現状ではできません。それでは本田に、ジダンみたいな視野の広さとプレーの速さ、つまり自分自身がすごく速く走ったりする必要はないのですが、自分のプレーを速くする、球を速く捌く、そして前の選手にも速く入れさせる、そういうことができれば、本田がああチームの中でスピードを下げることなく、上手く個としても機能できるのです。ただ、現状としてそれはできない状態にあります。そういう矛盾と言いますか、それがこの試合

の中で改めて出ていました。

本田は大会前に「個の力を」ということを言っていたわけじゃないですか。それに対して長友なども同調していましたし、おそらく香川なんかも本田の影響を受けていたと思うのです。それが結局、そっちの方に意識が行くことによって、それまでの日本の良さが失われてしまいました。

#### ◆イタリア戦とメキシコ戦からみえるもの一個と組織の問題

この問題をどうするのかと、私は非常に大きなことだなと思いながらイタリア戦を見ていたのですが、そこはきっとザッケローニも同じようなことは、私以上に感じていたはずですよ。

イタリア戦に関して言えば、「モチベーションと勇気」と銘打ったのですが、選手がアグレッシブにプレーすることによって、ある程度は解決されたように見えました。そして日本の良さを見せながら点も取れました。失点の部分は、守備の問題もちろんあるのですが、とりあえず、何となくパスサッカーができていたように見えました。

それがその1試合だけなのか、それともメキシコ戦でも続けられるのかという見方で第3戦を見ていたのですが、メキシコ戦は結局、前半の最後の方で足が止まって、そこから先は攻撃ができなくなってしまいました。なぜ、そこも引きずってしまったのかと言うと、アジア杯のことを思い浮かべてもらえればいいのですが、あの時は本田とパスサッカーというのが天秤の両方にあって、良いか悪いかは別にして、ある意味バランスが取れていたのです。日本のパスワークの中に本田が入るとプレーが潰れてしまい、パスサッカーに本田が必要じゃなかったのです。そうだったのですが、準決勝の韓国戦の後半以降、日本の選手の足が止まって、皆動けなくなりました。オーストラリア戦の時もほとんど皆動けなくなっていました。その時に本田のところにボールが来た時だけ攻撃ができたのです。彼はそこでボールをキープして、そこから自分が動いたり周りを使ったりして、そして周りが動く時間を作ることによって、日本の攻撃ができたわけです。ですが、このメキシコ戦に関して言うと、本田とチームが一つになってしまっているから、チームの足が止まった時に本田の足も止まってしまっていたのです。ですから、結局、タメを作れる選手が誰もいなくなってしまって、前半の終わり以降は、日本はもう攻撃が全くできませんでした。

それではこれをどうしたらいいのでしょうか。おそらくザッケローニも非常に困っていると思います。個人的には本田に早くミランに行きたくて欲しいと思っています。イタリアの環境はロシアとまた違いますから、ロシアのように足元に置いてそこからプレーというわけにはなかなかいきません。もっと周りの選手が早くボールを要求するわけで、そういう中で彼が自分の問題や現状の限界などに気がついて、そのプレーを修正できるかどうかぐらいしか思いつかないですね。

本田を中心とした個と組織の問題に関しては、結局香川もそういう中で、個のプレー、つまり本田あるいは長友との点と線のプレーしかできなくて、ドルトムント時代のような、周りの選手の速い動きの中でイメージーションなりセンスなりを発揮させるものとは全然違うスタイルになってしまいましたね。

「ブラジルの観衆に受け入れられたのにガッカリ」というのはその通りで、特にイタリア戦を見た後は、実際に日本のパスサッカーというのは受け入れられていたと思います。メキシコ戦での日本がボールを持った時の観衆の沸き方というのは、本当に日本のサッカーを楽しんでいたし、ブラジル人がちゃんと評価していた証拠で、別に弱いものを哀れんで応援してあげるというのではなく、日本のパスサッカーに対して彼らが正当に評価したからこそその拍手だったり歓声だったりしたと思うのです。ただ、実際にはそういう問題点がありました。それが一番、私が感じたことです。

#### ◆日本代表をめぐる諸問題

それ以外には、この大会で今までザックジャパンの中で未解決問題がそのまま残ったり、改めて顕在化して出てきたりしました。それは、ターン・オーバー制と言いますか、要するにスタメンとサブと、サブですらない選手の色分けが出てきてしまって、それが結局変わらなかったということです。ただ、これはザックだけの問題というよりも、その前の段階で、例えば清武や乾や細貝、そして大会に出た酒井（酒井宏樹。酒井高德は出場なし）にしても、結局サブの選手たちが出てきた時に期待通りの働きを誰もしていないのです。それはどうしてなのか、僕に

はよく理解できないのですけれども、結局彼らがレギュラー組を食うような活躍をしていけば全然問題はないわけで、それがなぜできないのかというと、そこに何か大きな理由があるかとは思いますが、それが改めて聞くようになったことです。

あともう一つ。先程も言ったメディアとザックとのコミュニケーションです。アジア杯の後、優勝した翌日にホテルで記者の囲み取材があって、その時は1時間半ずっとインタビューをやるぐらいコミュニケーションが多かったのに、それがいつの間にかどンドンメディアから遠ざかるようになっていって、ザックが何を考えているのかがなかなか伝わらなくなりました。ザックとメディア間でそういった問題があり、選手とザックの間のコミュニケーションも以前のように取れなくなっているのですね。もしかしたら、日本人スタッフがいるのですが、ザックと選手の間の中間役になるような日本人スタッフがいらないという問題なのかもしれません。トルシエの時でしたら山本昌邦さんがそういう役をやっていましたし、ジーコの時も里内さん（里内猛／当時フィジカルコーチ）、オシムの時は反町さん（反町康治／当時A代表のコーチ）など、そういう人がいました。もちろん今も日本人スタッフはいますが、和田一郎さんはそういう役割の人ではないですし、一部の選手、長友や本田とかはザックと直接コミュニケーションを取っていますが、そのへんのチーム内のコミュニケーションが以前ほど上手く取れておらず、そういう構造的な硬直性があるのではないかという気がしています。ですから、結局3バックについてもなかなか本人に聞く機会もないですし、彼のサッカー観みたいなのをこちら側に知らせてもらう機会もなくなってきています。ただ、そういうことをメディアが言わない、批判しないという部分もまた別の大きな問題なのですが、そういうところも含めて、日本代表があんまり良い状態ではないところが多々あるように思っています。それもまあこういう大会があったからこそ、改めてわかった部分ではあるので、そういう意味でとれば良かったと言えるわけです。

大会の意義としては、日本の良いところ悪いところ含めて、日本代表の今の立ち位置、現状がすごくよく分かった大会ではありました。選手としてはそれぞれ、特にレギュラー組の人たちはヨーロッパの各クラブで高いレベルの試合をやっていますが、チームとしての経験値というのは、日本代表というのはまだそこまでやっていないわけです。それがこういう大会を通じて本場に近いトップレベルの相手と真剣にでき、経験できたというのはよかったです。日本代表に関してはそんな感じです。

## 2. 大会全体からみえたこと

### ◆気候とコンディション

大会全体に関してですが、先程もお話がありましたように、気候とコンディションに関して、ブラジルというのは北と南で大きく差があります。ですから、北の暑いところでやるチームにとっては、気温の高さと、特に湿度の方が問題だと思うのですが、その湿度の高さというのはちょっと厳しいと思います。ただ逆に、先程言ったように日本の現状の問題ですよね。そういうところに近い条件でプレーしているチームにとっては北の暑いところでやる方がむしろ良く、相手も速いプレーができないので、自分たちのプレーがやり易いという意味では良いように思えます。まあそれで上に勝ち上がって行った時は厳しくはなるのですが、グループリーグを抜けるためには、むしろ気候の厳しい中でやった方が、日本の場合は有利ではないかと思えます。

### ◆今大会参加国の分析

他のチームに関してですが、まず言えるのは今大会でブラジルが復活したということです。監督が変わって、そこまでは結構不評でしたし、スコラーリが就任して始めの方は結構批判も多かったのですが、この大会で優勝したことで完全にブラジル代表自体が復活を遂げたというふうに言えるわけです。

スコラーリという監督は、基本的に戦術というよりは戦略家と言いますか、それは2002年の時もそうでしたし、ポルトガル代表の監督をやっていた時もそうでした。やはり、基本的には選手をバランスよく並べるタイプの監督で、そこは有機的な何かを作り上げていくとかそういう監督ではないわけです。2002年の時には前線の3人が攻撃を作ったように、攻撃は前の4人が作り、守備に関してはちゃんとオーガナイズしていました。そういう中で、特にネイマールや、あとはフレグが結構良くて、上手くはまったということだと思います。

ウルグアイに関して、W杯の時は2人でしたが、そこにカバーニが加わって、今回は前線に3枚並べていました。ウルグアイは守ってカウンターというサッカーをやっているのですが、守備も徹底されていて良いチームだと思いました。

スペインに関して、私は「復調」と書きましたが、それは結局ルイス・アラゴネスが作り上げたパスサッカーのチームをデル・ボスケが継承し、徐々に戦術的な精度が、時間が経つに連れて落ちてきており、今回のコンフェデレーションズ杯でダメになるのかなと思っていたのですが、この大会でいきなりまた昔に戻ったようで驚きました。それは、シャビ・アロンソがいなかったのが大きかったかなと感じました。日本代表にとっての本田みたいなもので、シャビ・アロンソのところにボールが取まるとパスサッカーのリズムが全然なくなってしまい、その代わりロングパスが出ていたのですね。そのシャビ・アロンソがいなくなることで、さらにバルセロナ中心の選手構成に戻したわけで、1番多い時はピッチの中に8人、バルサの選手がいましたからね。そうすることによって、バルサ流のパスサッカーがスペイン代表に出てきて、復活したということです。

イタリアに関しては、前回のユーロからブランデッリによって、守備もそうなのだけれど、攻撃に関して戦術的かつ組織的にある程度攻めるといのがさらに熟練していったように感じました。ですが、このチームは中盤には良い選手がいるのですが、ストライカーのところにバロテッリを入れればいいけど、そうじゃない時は迫力に欠けるという問題があったと思います。ただチームとしては、ユーロの時よりはさらに上がっている印象は受けました。

「第3勢力」と書きましたが、アフリカ勢は今回ナイジェリアが出てきて、そのナイジェリアは新しい世代のチームでした。それなりに良い選手もいるので、可能性を感じられると言いますか、監督のステファン・ケシはナイジェリア人ですが、結構良い監督だと思います。それは組織的に守備も攻撃もできるという部分でちゃんとしたチームを作っているからです。ただ、そうは言ってもナイジェリアに限らず今のアフリカ勢ということで言うと、アフリカ自体は全体のレベルが少し落ちてきている印象を受けます。コートジボワールはドログバというか、ASECアビジャンのアカデミーで育成された選手たちなのですが、彼らの世代が終わりの時期を迎えていて、エジプトも復活はしたのですが、以前のような強さにはありません。ガーナはそこそこなのですが、全体としてアフリカ勢が期待できるのかと言うと、今回のW杯に関してはないと思います。それは私だけじゃなくて、ヨーロッパの人たちも同じようなことは言っています。

#### ◆今大会不在のチームについて

最後に、今大会不在のチームのフィジカル、スピードについて見ると、今大会に出てきたヨーロッパ勢はイタリアとスペイン、そしてブラジルの選手もそうですが、ドイツ、アルゼンチンといったスピードとフィジカルを主体にするチームというのが今大会にはいなかったわけです。そういうチームがブラジルのこういう気候、環境で試合をやった時にどうなるかというのはわかりません。

そう考えた時に、来年のW杯はどういう傾向になるのか、もしくはどこが勝つのかという所も含めて、どういサッカーが世界の主流になるのか。1つはスペインのパスサッカーがありますよね。それに対して、代表でもクラブでもドイツがいま調子を上げています。そしてドイツというのはフィジカルをベースにした、ドルトムントに象徴されるような、縦に速いスピードのあるサッカーを主流にしています。それが果たしてブラジルでどこまでできるのか、そしてそれは世界の主流になるのか。そしてある程度そこで個人の差というものが出てきます。いま、縦に速いと言いましたが、それはアジア人にも言えることで、アジア人はドイツほどのフィジカルはないのですが、スピードのある縦に速いサッカーをしています。基本的にこのブラジルの環境の中では、縦に速いサッカーは向かないと思うのですね。南の涼しいところは別ですが。ではどれくらいそれができるのか。

あとは個のタレントですよ。まあ日本代表で言えば個と組織の問題で、まあ世界から見たら、個人の才能というのは圧倒的に強い要素としてあるわけです。ですから、それがどういう形で組織と混じり合っていくのかというところで、どんなバランスになるのかなというのが個人的には興味があるところです。

FIFAのテクニカルレポートとは違いますが、このように感じました。一応これで終わりにしたいと思います。



## IV. ディスカッション

中塚 ありがとうございました。御三方からそれぞれの角度でお話をいただきました。残り時間は限られています。限られてはいますが、その後の中華屋さんでたっぷり時間がありますので、中華さんに繋がるような話を残り15分くらいできればと思います。どんな角度でも構いませんので、ご質問でもご意見でもどうぞ。

### ◆いつ、どこで試合が行われるか

山内 先日、『キッカー』を見たところ、まさしく、田村さんがおっしゃった、ドイツ的な縦にスピードのあるサッカーというのが、今度のW杯のブラジルの気候的な条件、そして移動の距離の問題もあって厳しいのではないかということが、テクニカル・スタディ・グループでフランス人のジェラルド・ウリエ氏がおっしゃっていました。今はクラブにしても代表にしても、ドイツの縦に速いサッカーというのは非常にヨーロッパでもてはやされているけれども、厳しいのではないかということが指摘されていました。ドイツの協会の方もそれは分かっている、対応しているということもおっしゃっていたので、非常に興味深かったです。実際リーグ監督などは、今回の大会に行き、キャンプ地も含めて全体的にそれを見ているということも書いてありました。本当におっしゃっていた通りで、南米が今度は有利じゃないかというふうに出ていましたね。

田村 そうですね。やはりどうしてもスローペースになってしまうと思うので、そうかもしれませんね。

山内 非常にもうヨーロッパが支えていることになっていますからね。

牛木 どこが会場になってくるかも非常に大きいので、マナウスやフォルタレーザは非常に蒸し暑いですが、サンパウロやリオは、湿度は少し高いですが温暖です。さらに南の方に行くと、ポルト・アレグレやクリチバとかむしろ寒いですよ。ですから、ドイツがどこの会場に行くのかということも非常に重要だと思います。

田村 そうですね。マナウスなんて行ってしまうたら、本当にどうするのでしょうかね(笑)。

参加者 キャンプ地エリアって、ブラジリアかどこかにするというふうに聞きましたね。

牛木 キャンプ地はもちろん候補の中からチームで選べるのですが、キャンプ地からの移動が問題になってしまいますよね。

参加者 移動でどこへ行っても結局同じなので、その真ん中ぐらいにした方が一番楽かなということですよ。先程の徳田さんの話を聞いて分かったのですが、みんな半端ない距離ですね。

田村 大陸みたいなものですからね。

中塚 来年の大会も、どの国も3カ所で試合をやるわけですか？

徳田 いや、それはどうですかね。

田村 でも基本的には、そのグループリーグ内で同じ会場は使わないですよ。

徳田 確かにそうですね。

参加者 ブルーリーグは1日3試合ですよ。Aグループ2試合とBグループの1試合がきて、次の日はBグループの1試合とCグループの2試合といった感じだと思います。その時間は昼間と夕方の温度差はどうですかね。日本時間だと夜中の4時と朝の7時、そして今度W杯になるともう1試合が朝の9時なのか夜中の1時なのかですね。昼間の時間にやるチームと夕方の少し陰ってきた時間でやるのではすごく違いますよね。しかも、それが南と北でまた変わってきます。ですから、時間と場所によって戦術とか運不運が出てきますし、日本がラッキーなのかアンラッキーなのかというのも大きく影響しますよね。

田村 それは大きいですよ。あとはテレビ放映が優先されるから、そういう気候条件の良さよりも時間を優先されます。ですから、日本もそうなりますよね。

牛木 今大会の3位決定戦が現地時間で午後1時だったのですが、カンカン照りでしたね。

参加者 試合は面白かったですが、大変そうでしたよね。なんで午後の1時にしたのですかね。

牛木 いや、それはお偉い方の移動のためですね。今回は、3位決定戦と決勝戦は同じ日に、別の都市でやったので、われわれは移動できなかったのですが、FIFAのお偉方はチャーター機で移動できますからね。

徳田 もっと近い距離でやればよかったのに(笑)。

参加者 本番でもそうするつもりなのでしょうね。

徳田 今回は、基本的に試合時間は16時と19時だったじゃないですか。先程言ったように、もう1試合がどっちに入るかで見ている方も…

牛木 来年はやはり15時、17時、19時になるのでしょうかね。

田村 どうなるのでしょうかね。1時間ぐらいFIFAのディナータイムがあって3時間ぐらいあくのですよね。絶対FIFAのディナータイム、彼らのご飯を食べる時間をちゃんと取っているから。私は2時間あいて、3時間とか3時間半とかあくのではと見えています。

牛木 1日3試合行なわれる場合でも、テレビで全部が見られるように時間差を設けます。ドイツ大会のとき日本とオーストラリアの試合は午後3時からで猛烈な暑さでした。来年のブラジルでも北部の都市で午後3時からの試合になれば、かなり暑いかもしれません。

田村 いや、十分にありますよ。

#### ◆ブラジル“復活”のわけ

参加者 一つ素人的に聞きたいのですが、ブラジルはかつて強かったですよね。それが今のようになって、今回もまた強くなりました。どうしてなのでしょう？ 要するに、ネイマールとかそういうスーパースターみたいな選手が出てきたからなのですかね。それとも、サッカー全体の何か改善をして変えてきたからでしょうか。

牛木 私はブラジルが弱くなっていたとは思っていませんね。負けた試合があるのは、相手チームが強かったり、条件に恵まれなかったりしただけだと思います。ブラジルが強いと言ってもそんなに断トツで差があるわけではありません。ただ、今回行ってみて、1960年代、70年代に行った時と比べて、ブラジル全体のサッカーは非常に違っていました。一つは、街で子どもたちがサッカーをしているのを、ほとんど見かけなかったことです。もともと古い設備の国で、道路も狭いのです。昔は自動車がなかったから道路でボールを蹴っていたのですが、サンパウロなんか、いまは自動車が渋滞でほとんど進みません。郊外で、ようやくボールを蹴って遊んでいる子どもを見ました。それともう一つは、60年代70年代にはテレビを見ていなくても、ブラジルが点を入れたらすぐわかりました。街でクラクションなどを鳴らすからです。今回は、特別に警戒が厳重だったからかもしれませんが、全くありませんでした。街の民衆がラジオを聞いていて歓声を上げるというのも全くありませんでした。中間層が拡大して娯楽も増えて、ブラジルのサッカー環境が変わったのかなという印象を受けました。

田村 単純にFIFAランキングが下がっていったのは、W杯予選がないからなのですよ。要するに、ポイントの加算率が違うじゃないですか。ブラジルはフレンドリーマッチしかやれませんから、その加算の割合が低くなって、それでどんどん下がっていったのですね。あとは、それにプラスして前の監督の評判があまり良くなかったというのもありました。

牛木 まあ今度のメンバーを見てもそうですが、南米のチームは、みんな選手がヨーロッパのクラブに属しているのですよ。それで、ヨーロッパから呼び戻して準備をする期間がほとんどありません。日本もそうですよね。来年のワールドカップの前には、かなり準備期間は取れると思います。

田村 今回のチームは、私はブラジルのことについて実はあまりよく知らないのですが、結構国内の選手も呼んでいます。ブラジルの国内リーグ自体は若手が全部出て行ってしまったのですが、いま、例えばロナウジーニョがアトレチコ・ミネイロにいるじゃないですか。そして今回、アトレチコ・ミネイロから3人選ばれているのです。その中の1人が、日本戦で得点を挙げたジョーという選手です。さらに、そのアトレチコ・ミネイロは、今回リベルタドーレス杯で決勝まで行ったじゃないですか。割とそういう感じで、結構ブラジルに選手が戻ってきています。ネイマールはバルセロナに行ってしまうますが、全体的には選手も戻ってきている感じで、それはW杯の効果もあるとは思いますが。ですから、また少しずつ、ブラジルの国内自体は上がってきている印象は受けています。

#### ◆ブラジルのスタンド風景の変化

中塚 ちょっと違う観点で言いますと、実は「何か変だなあ」と思いながらブラジルの試合をテレビで見ました。それは何かと言いますと、音が鳴らない、サンパが鳴らないのですね。テレビの音声の都合なのか何かよくわからないのですが。私の記憶に強く残っているのは1982年のスペイン大会のブラジルのサポーターで、ダンダカダンダカとにぎやかに鳴り響くサンパのリズムに合わせて凧が舞っている。そういうのがブラジル代表の試合の雰囲気として印象に残っているのですが、今回は全然違いましたよね。

田村 ブブゼラみたいなものもなかったですからね。

中塚 特別な規制でもあったのですか？

牛木 荷物の検査も厳重ですし、昔と違ってお客さんの入場の整理なんかも整然としているのです。大きな金属の柵みたいなのを持ってきて、サーと試合の日の午前中に並べてしまうわけですね。そこに、コンビニでレジに並ぶみたいに整然と並んでいるのですよ。

中塚 太鼓なんて持って入れないですよ。

牛木 絶対に入れません。

徳田 日本人で持って入ろうとしていた人たちは、空港と同じような感じで、入る前にはじかれていました。おそらくダメだったと思います。

牛木 ブラジルらしくない手際の良さでした (笑)。

田中 荷物の検査はどのくらい厳重だったのですか？

牛木 私はメディアの入り口から入るので、荷物の検査は形式的なものでした。

徳田 本当に空港と同じです。エクス線を通します。逆にオリンピックの時なんかはそれがないから、全部なしで皆一斉に入るから混雑していて、今回はそれがあるから時間はかからないのですが、本当に厳しかったです。はじかれたらダメですから。

参加者 太鼓をバンバン叩く日本のサポーターが断幕を持って入ろうとしたらダメだったとか、Twitter でつぶやいている人も結構いましたからね。太鼓は入れたとか潜り込めたとかいうのと、ダメだったというのがありました。

参加者 マラカナンも名前はマラカナンですが、ほとんど新しいスタジアムで、雰囲気は違いますか？

牛木 内側は全く別のスタジアムです。昔はみんな立ち見席でしたけど、今はもう全部綺麗な椅子です。外側はむかしと同じですね。

#### ◆メディアセンターの運営をめぐる

徳田 私が時間を潰してしまっていてあれですが (牛木さんのお話の予定のプリントに) 試合前日の記者会見の不幸際と書いてあるのですが、これこそ聞きたいのですが・・・ (笑)。

牛木 記者会見の時の通訳は限られていて英語とポルトガル語と対戦した両チームの言葉です。日本の監督の場合は、日本語の通訳が用意されているわけですね。ところが、日本のザッケローニ監督はイタリア語です。イタリア語を日本語にしないといけないのですが、その通訳がないのです。最初に開かれたザッケローニの記者会見の時に、ザッケローニについている日本チームの通訳を入れようとしたのですが、同時通訳があるので外したのです。その時の同時通訳が使い物にならなかったのです。その同時通訳を聞いていて、これはイタリア語から日本語にしているのではなくて、イタリア語から英語にしたのを日本語にしていると思ったので、途中からもう二重に間違いがあるよりも、1 回だけ間違いがあった方が良くと思って、英語の方を聞いてみたのです。そうすると多少はわかるようにはなりました (笑)。

あともう一つ、クレジットカードの ATM についてです。これは皆さんにも関係があるかもしれません。近頃はクレジットカードでいくらでも換金できてお金を持ち歩かないから、皆さんお金を盗られたりなんてしないですよ。現金は必要なだけ、クレジットカードで ATM から引き出しますよね。大会では VISA が FIFA のオフィシャルスポンサーなので、メディアセンターには、VISA の ATM しかないのですよ。それで、私が VISA のカードでお金を引き出そうとしたら、「あなたのカードは使えません」という表示が出てきたのです。それは南アフリ

リカ大会の時に使った同じカードで、その時は VISA の ATM で使えたのです。それで、お金が出ないからおかしいなと思って聞こうと思いましたが、メディアセンターのなかに VISA のカウンターがないのです。南アフリカ大会のときはあったのに、今回はありませんでした。それなら、街の銀行はどうかと思って行ったら、街の銀行では VISA で下ろせる ATM と下ろせないのがありました。それはその銀行と VISA が提携しているかどうかによるのですね。そして私のカードにあるマークが付いている ATM であれば、その ATM からお金が出るということが分かりました。オフィシャルスポンサーでいて、VISA のカードがメディアセンターの中で使えないのですから、それは無茶苦茶だなというのがありました。

もう一つ。私はパソコンが壊れてしまって往生し、最後はお手上げ状態になってしまったのですが、問題はなぜ壊れてしまったのかですね。サンパウロで直そうと思ってパソコンの修理屋さんに行きましたが、日本語で聞いてもわからないのに、なんせポルトガル語ですからね(笑)。わかるわけがないのですよ。日本で購入した台湾製のパソコンだったのですね。それで同じメーカーの代理店がサンパウロにあるというのを調べてもらって、問い合わせました。そうすると、ブラジルで作ったものでないと取り扱わないと言われました。それで、ポルトガル語や英語では話にはならないから、日本人街に行って、日系人がやっているパソコン屋さんに行きました。そうしたら、その社長さんが色々やってくれたのですが、それがどこの国でも、たとえ作ったものが同じ銘柄の商品でも、扱わないということでした。それから、部品も合わないのですね。私のパソコンの場合は、電源のコンセントと本体をつなぐコードについているアダプターが壊れたのですが、代わりのコードをブラジルで買っても、差し込みが合わないということでした。同じメーカーの、同じ銘柄の商品でも、国によって規格が違うということでした。日本へ持って帰って、いま修理に出しているのですが、パソコンと電源を繋ぐコードに AC アダプターという変圧器みたいなものが付いていて、それが壊れたのです。なぜ壊れたのかというと、日本のパソコン屋さんが言うには、「ブラジルだとは言いませんが、電圧が不安定な国があります」ということです。220V までは大丈夫と書かれていても、国によっては、電圧が上がったり下がったりして、時には 220V よりも急激に上がったりします。ですから、電源に繋ぎっぱなしで使っているとそういうことが起こるのですね。本体が壊れなかったのは、AC アダプターが壊れたからだそうで、「運が良かったと思いなさい」とも言われてしまいました。

田村 でも、それは本当にそうですね

牛木 南アフリカ大会の時は、外国でパソコンがそういうふうになったらお手上げなので 2 台持って行ったのですが、今回はちょっと油断して 1 台しか持って行きませんでしたね。

#### ◆改善されるのか

中塚 牛木さんの配ったレジュメの最後の 2 行のところの部分(運営の問題)について、ちょっとご説明いただけますか。

牛木 いや、例えば記者会見の通訳の問題でも、段々改善はされたわけですよ。改善はされてボランティアの人たちが一生懸命やっているのだけれど、来年もその人たちがやるわけでもないでしょうし、われわれが指摘した問題点が来年に反映されているのかどうか非常に疑問に思います。

田村 そうですね。FIFA のメディアオフィサーとかも結構知り合いのジャーナリストにどこがダメなのかを聞いて、メモをしていたりしていましたが、それがどうなるかですね。本当に。

牛木 ATM の問題と VISA の問題と電圧の問題については、私は FIFA と VISA と SONY に手紙を出そうと思っています。でも、たくさん手紙が来たら、今度は読む気なくなるでしょうね(笑)。要は FIFA の基準で色々なことをやるわけですね。ですが、国民性の違いでやり方が違ってきます。例えば、われわれがアクレディテーション

ンカード（記者証）を発行してもらうときは、まずパスポートを提出し、申請している書類とパスポートが合致しているかを確認し、その間に顔写真を撮って、カードが制作されるのを窓口の前で待って、呼び出されたら出来上がったカードを受け取り、パスポートを返してもらうというシステムなのです。それはドイツの時もそうだったのですが、ドイツの場合は受け取る所にちゃんと椅子が並べてあって、立っていると「座ってください」と言われました。でもブラジルの場合は、ブラジリアで登録したのですが、受け取る場所で英語のできるボランティアの人たちが付きっきりでやってくれていました。ただ、その彼女たちが窓口の前でペラペラお喋りをしていて、呼び出される声が聞こえないのですよね（笑）。

田村 基本的にみんなすごく親切で、最後までちゃんとフォローはしてくれるのですが、間にそういうことが入っていて、ものすごく時間がかかりましたね。

牛木 ブラジル人は、混雑を楽しんでいるのではないかと思います。ただ、それにしては、スタジアムの警備は非常に整然としているのですよね。

田村 結局今回、私はビーチ付近のホテルではほとんど泊まらず、リオにしてもレシフェにしても中心地のホテルに泊まりました。そこでは結構デモが危ないよとか、夜とかも強盗が来るかもしれないと言われていたのですが、やはり警備の人がたくさんいましたし、そういう警備に関してはすごいちゃんとしているなと思いましたね。そんなに危険な感じもしなかったですし、ただ実際にそこまで危険じゃなかったのかもしれない。

牛木 私はワールドカップの時に、いつもやっていることがあります。それは1カ所に拠点を作って、そこから各会場都市に行くようにしているのです。大きな荷物を持って各地の会場を転々とするのは、たいへんですし、ホテル代も高くなるからです。ただ、来年のブラジルは広くてそれがなかなか上手くいきそうもないのですが、サンパウロで便利そうなところを探したのです。日本人街に近いところで、地下鉄で行けばサンパウロの新しい競技場に真っ直ぐに行けるし、長距離バスの発着場にも行けます。また市内に空港があって、国内便がそこからたくさん発着するのですが、そこにもアクセスしやすくなっています。ただ、地元の人にその辺は危ないって言われました（苦笑）。ですから、なかなか難しいですね。サンパウロというのはバカでかい街なのです。

#### ◆2014年へ向けて

中塚 抽選会が12月のいつだったでしょうか？

徳田 6日です。

牛木 もしツアーとかで行くのではなくて、個人で行くつもりでしたら、12月6日に日本の試合地が決まったらすぐに飛行機便は取った方がいいですね。

田村 飛行機は早く取った方がいいですね。

牛木 その方がずっと安いです。現地に行って取ろうと思ったら、そこにブラジルの試合とかぶった日にはべらぼうにお金がかかりますよ。

田村 おそらく現地で飛行機は、取れないことはないと思いますけど、値段は高くなりますよね。

牛木 それから、地方の都市から地方の都市に行く場合には、直行便はそんなにたくさんはありません。そうする

と、サンパウロかブラジリアかりオで乗り継ぐことになります。ただ、そうすると結構乗り継ぎの時間が問題になります。1時間以内の乗り継ぎですと、前の便が遅れても責任は取らないというのがあったらしいですね。そうすると、ある程度の時間の余裕をみななければならない。そしてそれがまた遅れたりする。私はレンフェからペロオリゾンテに移動する時はブラジリア経由でした。出発が午前中だったのに飛行機が遅れたりして、到着は夜になりました。ですから、移動に1日とっておかないといけないから、毎日、試合を見ようというのはとても無理ですね。また、今回の入場券に関しては、大会が始まる直前まで FIFA のサイトでまだ残りがある状態でした。それから再抽選がありまして、サイトによってはまだ残りがありました。私の友達はみんなサイト上で購入していましたね。

徳田 日本戦のイタリアとメキシコ戦はずっと残っていました。ブラジルの3試合と決勝とスペインウルグアイだけは最初から売り切れてしまいましたね。

牛木 スタンドを見ると、バックスタンドが割と空いていましたね。

田村 席は意外と空席がありましたね。

牛木 おそらく高いから、ブラジル人には買えないのかもしれない。

田村 やはり富裕層しか買えないとは言っていましたね。

徳田 南アフリカの時もそうでしたけど、今回も、スタンドのカテゴリーがはっきりしていませんでした。カテゴリー1が一番高い席と書いてあるだけで、どこにあるのか書いていないのですよ（笑）。カテゴリー2はその隣と書いてあって、カテゴリー4はブラジル人用に売ると言っていましたね。南アフリカでもそうだったのです。ですから私たちは、カテゴリー3でゴール裏だと思ったら、カテゴリー1の辺りにあってびっくりしましたね。

牛木 私の友人でダフ屋から安くチケットを買う名人がいるのですが、そいつが今回はお手上げだったのですよ。なぜだったかと言うと、ネット上のダフ屋も歩いているダフ屋もいなかったからです。取締が非常に厳重で、ダフ屋がうろろろできないわけですね。つまり競技場の側まで行けないのです。

田村 確かに、相当前からブロックされていました。地下から歩かされましたからね。

牛木 一般の観客は相当前から下ろされて歩いたようです。

徳田 シャトルバスもチケットがないと乗れないと言われていたのですが、なくても乗れてしまいました（笑）。先程言った、手に付けられた緑のやつ（腕輪）も、チケットを見て付けているわけじゃなくて、来た人みんなに付けているから「なんだ、これ」と思いましたね。ですから本当に、スタジアムに入る最後のチケットチェックで機械を通す時の不具合が一番怖くて、もっと手前でやってくれればそこで対応できるのですけどね。それが一番怖かったですね。

中塚 外で雷が鳴っていてしばらくは雨宿りをしないとイケないかなと思ったのですが、ちょっと鳴り止んでいるような感じなので、今日のところはここまでにしたいと思います。来年がすごく楽しみになってきましたね。どうもありがとうございました。

続きは「ルン」で